

保護者の皆様

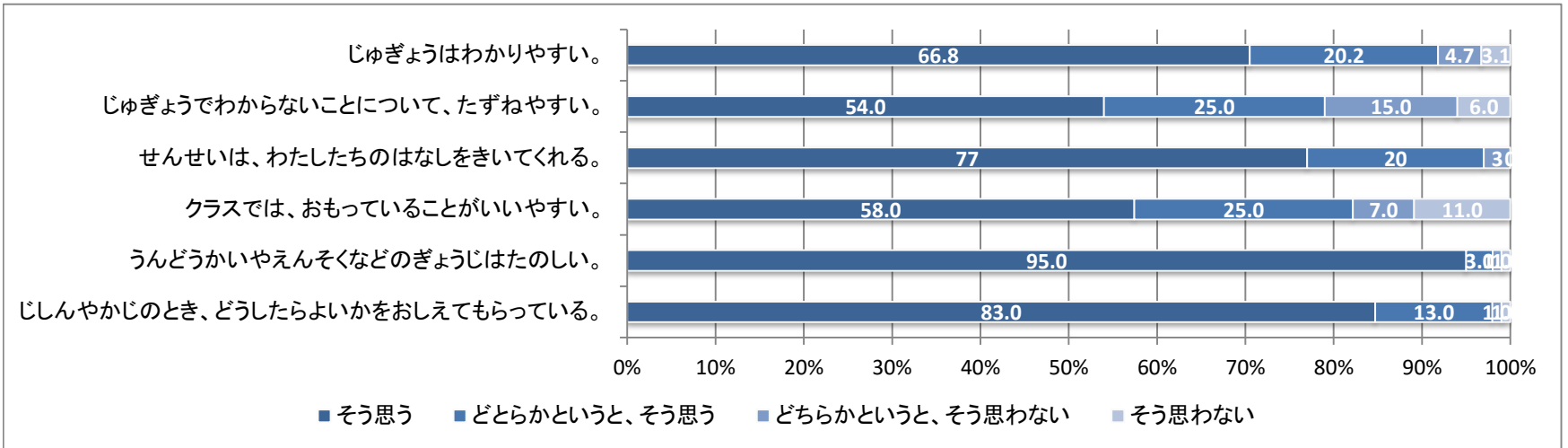
吹田市立山田第三小学校
校長 花田 郁子

学校教育診断アンケートの結果について

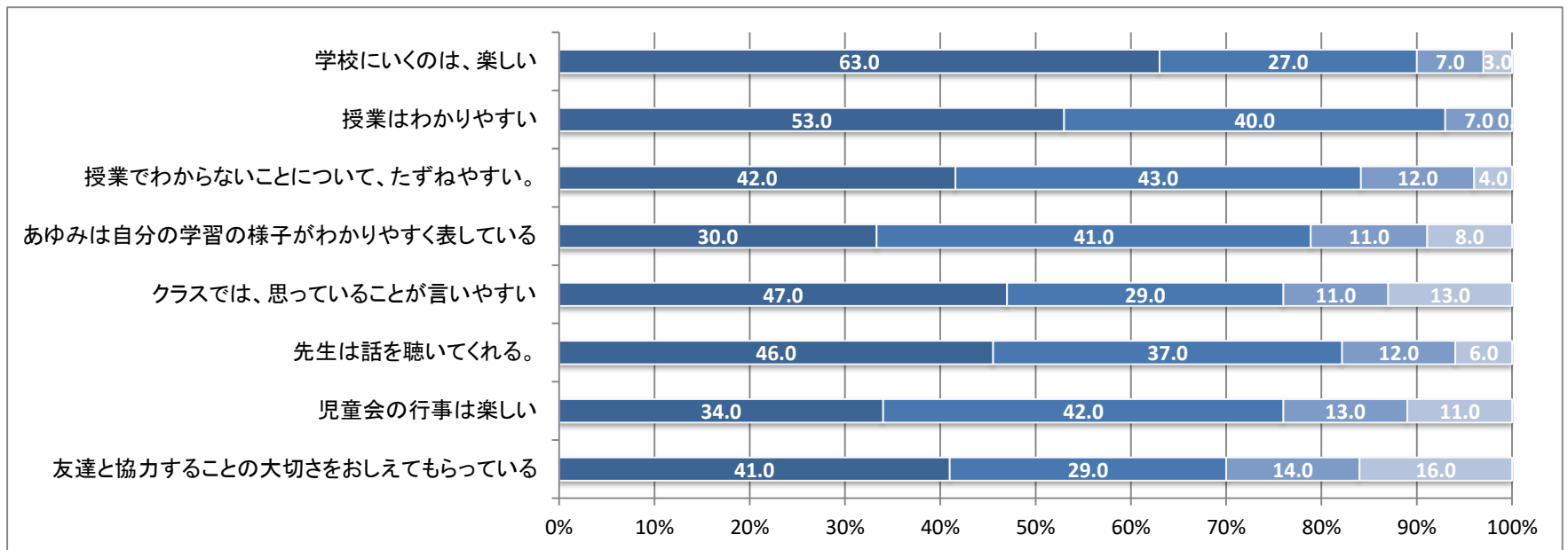
平素より、本校の教育活動推進にご理解とご協力を頂き厚くお礼申し上げます。さて、昨年11月に実施いたしました学校教育診断アンケートの集計並びに考察が終わりましたのでご報告いたします。低学年児童、高学年児童、保護者のアンケート集計結果をグラフで表し、併せて成果と課題についてお知らせいたします。なお、紙面の関係で、一部の集計結果しか掲載できませんが、全ての集計結果については、学校ホームページにて掲載しておりますのでご覧下さい。

低学年アンケート

* 数字は%です。



高学年アンケート



【考察】

《低学年》

△成果としては、「ぎょうじはたのしい」という項目で「そう思う」「どちらかという、そう思う」という肯定的な回答が98%でした。学校行事や児童会行事などに楽しんで参加している児童が多いことがわかります。「せんせいは、わたしたちのはなしをきいてくれる」では97%、「じしんやかじのとき、どうしたらよいかをおしえてもらっている」では96%が肯定的な回答をしています。学校での避難訓練などの指導が活かされて、災害時に命を守る方法、いのちの大切さや決まりについても、子どもの中に意識づけられているようです。

▼課題としては、「クラスではおもっていることがいいやすい」では18%が「そう思わない」「どちらかという、そう思わない」という否定的な回答をしています。「じゅぎょうでわからないことについてたずねやすい」という項目でも21%が否定的な回答をしています。低学年の間は、指名されれば発言できても自分から積極的に発言することは難しいと感じているようです。

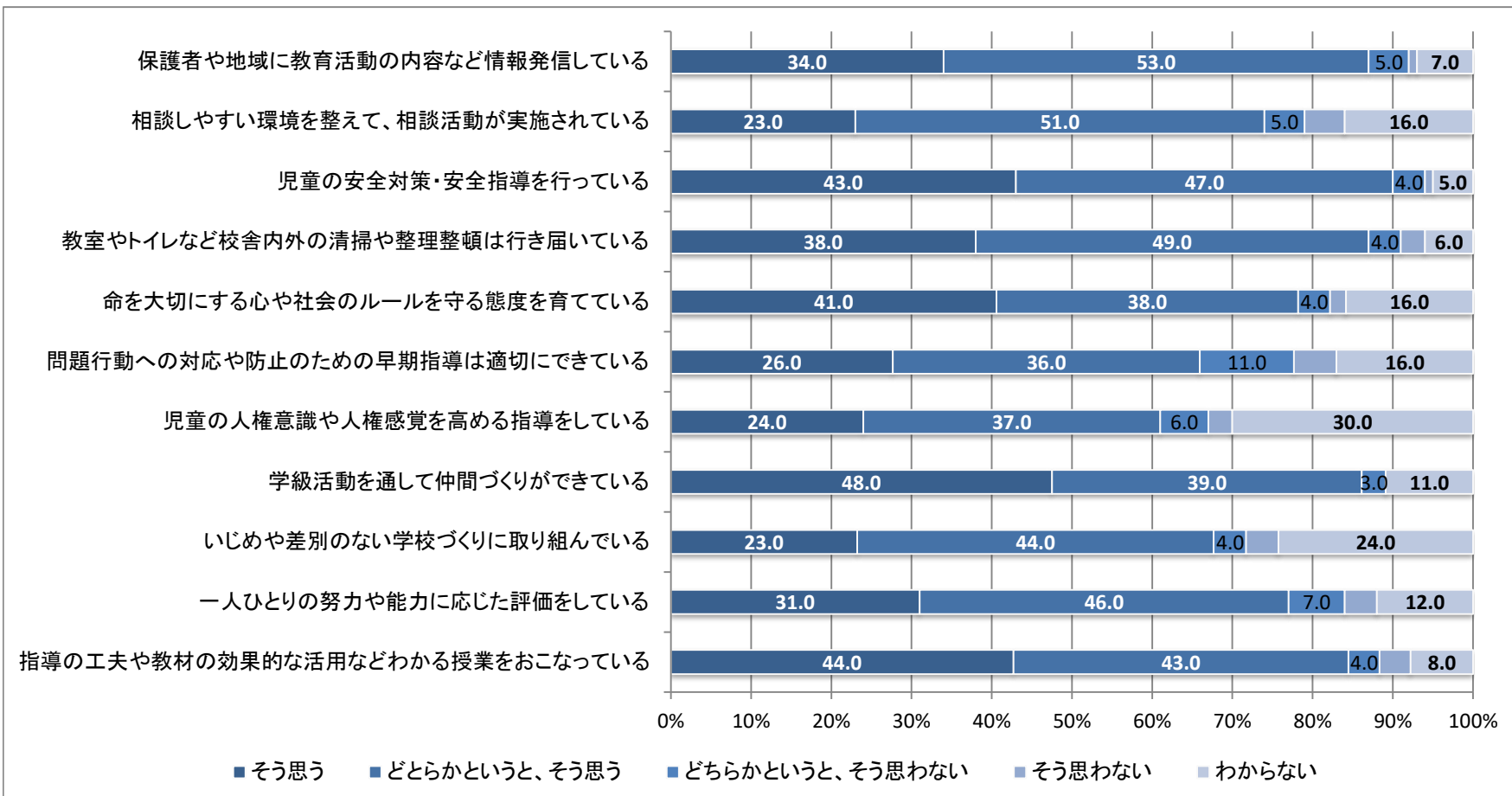
《高学年》

△成果としては、低学年と同じように「授業が分かりやすい」(93%)「地震や火事の時、どうしたらよいかを教えてもらっている」(93%)「授業でわからないことはたずねやすい」(85%)「先生は話を聴いてくれる」(83%)という項目で「そう思う」「どちらかという、そう思う」という肯定的な回答が多かったです。

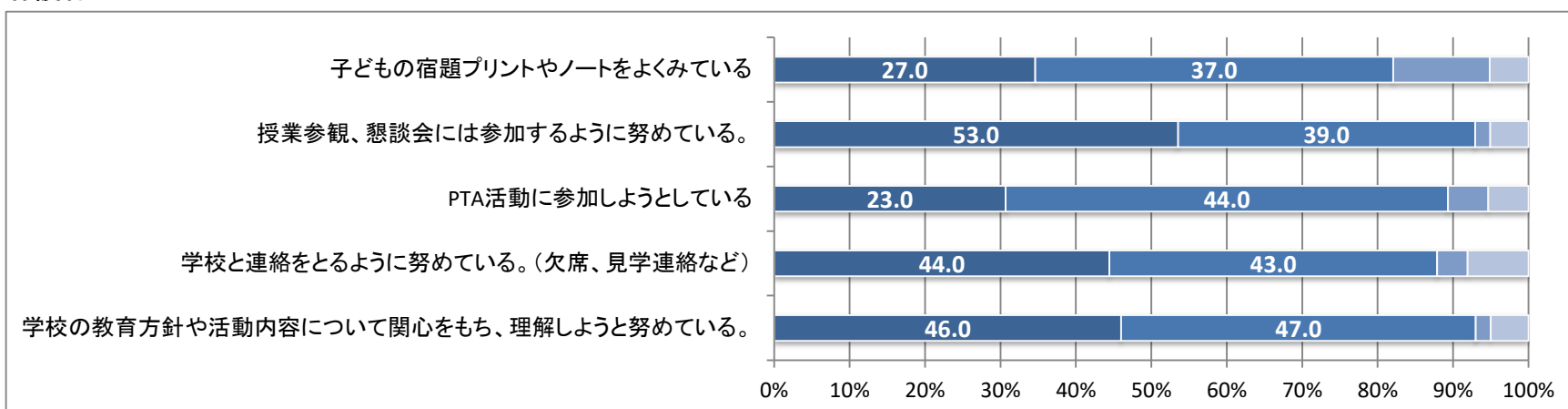
▼課題としては、「友達と協力することの大切さをおしえてもらっている」に「そう思わない」「どちらかという、そう思わない」という否定的な回答(30%)が多かったです。ほとんどの児童が「運動会などの学校行事は楽しい」と回答している中で、「児童会行事は楽しい」に24%の児童が否定的な回答をしている。クラスの仲間と協力しないとうまくいかない学級活動や、自分たちで主体的に活動しなければならない児童会活動が負担に感じている児童がいるようです。

昨年の結果と比較すると、「授業でわからないところをたずねやすい」に「そう思う」「どちらかという、そう思う」という肯定的な回答をした児童は低学年で67%→79%と大きく増加しています。同じく「クラスで思っていることを言える」では、低学年で69%→83%、高学年で70%→76%増加しています。これは、授業の中で振り返りの時間をとるようにしてきたことや、ペア学習やグループ活動などの活動を多く取り入れるなどの指導方法の改善の効果であると考えます。さらに、児童がお互いの思いや考えを受け入れ、安心して学べる学級・学校づくりを進めていきたいと思えます。

保護者アンケートⅠ



保護者アンケートⅡ



【考察】

△成果としては、「児童の安全対策・安全指導を行っている」という項目で「そう思う」「どちらかという、そう思う」という肯定的な回答は90%「指導の工夫や教材の効果的な活用などわかる授業を行っている」では87%、「学級活動を通して仲間づくりができている」という項目では87%と肯定的な回答が多くなっています。

「教室やトイレなど校舎内外の清掃や整理整頓は行き届いている」という項目では、87%が「そう思う」「どちらかという、そう思う」という肯定的な回答をされており、昨年の72%から大きく増加しています。

「地震や台風などの非常時の対応について、児童や保護者にマニュアルが示されている」という項目では、93%が「そう思う」「どちらかという、そう思う」と肯定的な回答をしています。今後、地震発生時の引取り訓練を実施するなど、より確実なマニュアルの策定、周知に努めたいと思います。

▼課題としては、「子どもの人権意識や人権感覚を高める指導をしている」では61%が「そう思う」「どちらかという、そう思う」という肯定的な回答をされているものの、30%の方が「わからない」と回答されています。また、「いじめのない学校づくりに取り組んでいる」では67%が肯定的な回答をされていますが、「わからない」と回答されている方が24%もいます。これは昨年の16%から大幅に増えています。

学校では、子どもの人権意識を育て、すべての子どもが差別や偏見のない社会の中で安心して暮らしていけるように人権教育を推進しています。各学年ごとの取り組みをご理解いただけるように、学校だより、学年だより、ホームページなどでお知らせしていきます。また、いじめのない学校づくりの取り組みについても同様にお知らせしていきます。

「問題行動への対応や防止のための早期指導は適切にできている」という項目では、62%が「そう思う」「どちらかといえ、そう思う」と肯定的な回答になっていますが、これは昨年の67%に比べかなり減少しています。個別の問題行動等に関しては、担任だけでなく校長・教頭・首席・生活指導担当者・学年がかかわり対応に当たっています。また、個別の事例は全教職員で共有し、再発防止にも取り組んでいます。しかしながら、一回の指導で解決しないケースやたくさんの児童がかかわっているケースでは時間をかけて継続的に指導を行う必要があります。担任だけが抱え込み対応が後手に回らないようにしていきます。

《記述事項に関して》 より良い学校にするためのご意見をお書きいただくようお願いしたところ、次の項目で回答がありました。

- * 教育活動に関して…道徳教育の評価、安全教育、宿題(家庭学習)
- * 学校運営に関して…不審者対応、メールでの情報発信、参観懇談
- * 学校行事に関して…運動会(プログラム順、参観場所、応援合戦の方法、競技中のBGM)、音楽会、宿泊学習
- * その他…放課後の活動、太陽の広場、課外クラブ

学校教育アンケートは、児童・保護者のみなさんの意見をお聞きして、改善に向けて検証するための資料とさせていただきます。全教職員で共通理解をもって取り組んでいきたいとおもいます。しかし、まず学校としての教育方針、学校運営方針についてご理解いただけていないと感じることが多くありました。学校からの発信が丁寧でないのご意見もありました。学校も保護者の方のお考えを伺い、互いに理解しあいながら、子どもたちの健全な育成のためより良い教育活動、学校運営を行っていきたく思います。よろしくお願いたします。ご協力ありがとうございました。